



FC東京

学校教材まで作成！みんなで子どもの心と体づくり 1/2

「地域の中で友達と元気に遊び、スポーツを楽しむ。そんな子ども達の姿を増やしたい!!」そんな想いでこの活動は始まりました。プロコーチたちが重ねてきた専門性・実績、教育委員会との信頼関係をもとに、「動き作り」の内容が詰められ、ドリル教材となり、誰一人取り残さないためにも大切な学校体育の授業で導入され、カタチとなりました。先ずはFC東京を株主として支える6行政(府中・三鷹・調布・小平・西東京・小金井)の小学1年生全員に配布されスタート。今後、さらなる拡大を目指します。



活動場所 府中市立若松小学校をはじめとする府中市・三鷹市・調布市・小平市・西東京市・小金井市の各市立小学校ほか



協働者

企業、学校、行政

協働者名

学校法人帝京大学、府中市教育委員会、府中市、調布市、三鷹市、小平市、西東京市、小金井市



協働者の声 府中市教育委員会／進藤 智洋 氏



児童・生徒の体力向上に向けて、FC東京と会話を重ねる中で、子どもたちが運動に親しむための意欲付けや多様な動きの習得などについて共通課題認識を持つことができ、低学年期に焦点を当てた「あかあおドリル」作成にたどり着きました。今後も子どもたちのために、健全育成や教育についての連携を深めていきたいです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [フジテレビTwitter](#)
- 3 [朝日新聞記事](#)
- 3 [三鷹市HP](#)
- 4 [調布市HP](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





FC東京

学校教材まで作成！みんなで子どもの心と体づくり 2/2



Story

2020年、コロナウイルスの影響により、休校や分散登校など、子ども達は活動制限を余儀なくされ、大きなストレスを抱えることになりました。この状況に対して、クラブとして何か出来ることはないか？そんな思いから自宅でも楽しく体を動かすことに挑戦できる動画を製作、クラブや行政のホームページから発信するとともに、小学校にデータを展開、活用してもらいました。その一方で、クラブは設立当初から学校にコーチをお邪魔し、サッカーや体を動かす楽しさを伝える「キャラバン隊」やその方法を考える「教員研修」など様々な普及活動を行ってきました。こうした活動



を続ける中で、幼少期の運動体験格差が、体力低下や運動嫌いの子を生み出す一つの要因になっているのではないか。それに対して教育委員会と連携して取り組めることはないかという会話を重ねてきました。

そして、学校教科外で子ども達の運動時間を増やすことや、体育が専門でない先生でも体を動かす楽しさをより伝えやすくすることを想定し、学習指導要領の内容に沿った体育授業の副教材を製作、学校で活用してもらう取り組みを行いました。

体育授業や生涯スポーツの知識はあるものの、課題はその製作費用でした。こうしたところ帝京大学さまがこの取り組みの想いに共感、協賛してくださり、製作することができました。

制作したドリルは都内小学1年生約10,400人に無償配布し、活用をしてもらっています。またコーチによるドリルを活用した授業や、活用方法を検討する先生との研修を行い、その展開を深めています。現場の先生方からは「子ども達が意欲的に活動に取り組んでいる」や「分かりやすく体育授業の中で活用している」といった声が届いています。



今後、この取り組みを継続し理解者を増やす中で、「体を動かすことが楽しい」と感じる子どもを増やし、生涯を通じてスポーツを楽しむ風景を増やしていきたいと思います。